【募集】第95回民族学研修の旅

アルテ・ポプラル
――メキシコの民衆芸術を訪ねる

同行講師：鈴木 紀（民博教授）
旅行期間：2025年2月17日（月）～25日（火）【9日間】
申込締切：2024年12月25日（水）
友の会会員（＊維持会員・正会員・家族会員）は2024年**9月3日（火）**、
それ以外の方は、**9月10日（火）**より受付開始。
参 加 費：724,000 円
（行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む）
募集人数：25名（最少催行人数15名）〈先着順〉

＊上記会員以外の方は、該当の会員もしくは体験会員（4,000円）にご登録ください。

＼「民族学研修の旅」いよいよ再開します！／

ノアの方舟を描いた「生命の木」が置かれたメヒコ州メテペックの民芸品市場　撮影・鈴木 紀

あふれる色とはじける形！ ラテンアメリカでは、民衆のつくる洗練された手工芸品を「アルテ・ポプラル（民衆芸術）」とよびます。民衆芸術には、生活用品から土産物、コレクター向けの高級品まで多様な作品が含まれます。表現手段も、陶器や木彫り、絵画や版画、織物、雑貨に至るまでさまざまです。ラテンアメリカの民衆芸術は、どうして多様なのでしょうか。その答えは、ラテンアメリカの人びとがたどってきた歴史のなかに見つけることができます。

五年ぶりに再開する民族学研修の旅では、「民衆芸術」をテーマに、メキシコを訪ねます。二〇二三年春に開催したみんぱくの特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」のエッセンスを現地で体験するのが今回の企画のねらいです。民衆芸術をとおして、ラテンアメリカの歴史の多層生と文化の多重生を体感しましょう。

民衆芸術には、さまざまな解釈が存在するといわれています。この旅では、特別展で着目した三つのキーワードをもとに、現地を訪問します。

ひとつめが、諸文化が生み出した造形表現です。先コロンブス期の石彫や、植民地時代に発達したスペイン風の陶器など、各時代の文化にちなむ工芸品が見られます。

ふたつめが、「国民の芸術」として振興された表現です。二〇世紀前半、メキシコでは、政府が国民文化を高揚する手段として手工芸品に着目し、「民衆芸術」と名付けました。その結果、各地に名工が輩出し、秀作を残しました。複雑な陶器のオブジェ「生命の木」やカラフルで空想的な動物木彫りなどメキシコを代表する民衆芸術は、こうして誕生しました。

三つめが、市民による批判精神としての表現です。二〇世紀後半のラテンアメリカでは、民主化や人権尊重を訴える市民運動が活発化します。メキシコ南部のオアハカ市では、若手の芸術家たちがこうした運動を継承し、政治的メッセージをストリートアートの形で表現しています。

これらの要素が、現在も継続し、ともに存在していることが、ラテンアメリカの民衆芸術の多様さを生み出しているのです。

旅では、民衆芸術の生産地やみんぱくの所蔵資料を制作した工房などを訪ねます。みんぱく馴染みの作家がつくった木彫りに色を塗るワークショップにも挑戦します。街歩きをしながら公共空間に描かれた絵画や版画作品を見学するほか、遺跡や教会、ローカルな市場にも足を運びます。

「メキシコのいま」をつくる人びとの経験や営みにふれるとともに、その地で生み出された豊かな造形表現を楽しみましょう。ぜひ、ご参加ください。

オアハカ州アラソラ村のヒメネス家の私設博物館に飾られたコヨーテに変身したナワル（シャーマン）の木彫　撮影・鈴木 紀

アラソラ村のヒメネス家の私設博物館　撮影・鈴木 紀

……旅の参考に……

『季刊民族学』でも、
ラテンアメリカの民衆芸術を紹介しています！

特別展の図録も参考に！
（残念ながら完売しました。
図書室等でご覧ください）

126号
メキシコの夢
――マヌエル・ヒメネスとゆかいな木彫りたち
動物木彫り誕生の立役者・マヌエル・ヒメネスの生涯とともに、制作の軌跡と当時の社会背景について紹介。旅ではヒメネス家の工房を訪ねます。

170号
アルテ・ポプラル
――メキシコの造形表現のいま
特別展の前身となった企画展「アルテ・ポプラル――メキシコの造形表現のいま」の関連記事。「生命の木」などの民衆芸術作品を紹介。

詳細・受付フォーム

https://www.senri-f.or.jp/95travel/

みんぱく友の会のホームページ内にあります。訪問先等詳細は、第95回民族学研修の旅のフライヤーをご参照ください。